

時代が求めた「女性像」

—大正・戦中・戦後にみる「女の一生」—

全14巻

◆監修・解説◆ 岩見照代

麗澤大学教授



誕生・生育・教育・労働・恋愛・結婚、妻・主婦・母になる——、
さまざまな女性のライフイベントや服飾・化粧など、
これまで個別に扱われてきた側面をトータルにとらえ直し、
時代が創り出してきた、女性像の全体に迫る。

ゆまに
書房
YUMANI SHOBOU

刊行にあたって

麗澤大学教授 岩見照代

「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」。まだジエンダー概念のなかった時代、シモース・ド・ボーヴォワールが、「女」のつくられたを『第二の性』（一九四九年）でみごとに喝破してから、すでに六〇年余。ここで今一度、原点とも言うべき「女になる」様相をとらえ直してみたい。これまで教育・政治・文学・歴史……とさまざまな分野で、かなりまとまつた女性論が刊行されて久しい。しかし「女の一生」を通して、一堂に見渡すことのできないもどかしさがあつた。

本シリーズでは、誕生・生育・教育・労働、恋愛・結婚、妻・主婦・母になること、といった女性のライフイベント、そして日常生活で欠かすことのできないなかつた服飾・化粧もふくめ、これまで個別に扱われてきた側面をトータルにとらえ直し、時代がつくる女性像の全体に迫ることができるよう編集を試みた。一例を挙げれば、「孝女」「節婦」「烈女」「毒婦」など、つい最近まで語りつがれてきた女性像であるが、もはや古色蒼然の觀がある。そして今ここで使つてゐる「女性」ということばさえ、近年になつてようやく一般的化してきたのである。

本シリーズでは、明治末年から大正期初頭の「新しい女」、昭和前期に闊歩したモダンガール、また戦中・戦後の激動期を生きた女性たちのライフィベントに則したカテーテライズを設け、時代の局面に言及した書籍を集成した。どのように「女」が表象され、つくれてきたか、それらを具体的に考え直すことのできるシリーズとして活用していただければ幸いである。

■『時代が求めた「女性像』全14巻の収録内容

●第一巻●「新しい女」へのリアクション

青柳有美〔著〕

女の裏おもて

一九一九年 成文堂書店

【目次から】 恋の極意指南所／女優は風俗壊乱／大正芸者論／女優宇治龍子先生／妖婦本荘幽蘭／「魔の曲」のモデルいね子／女と芝居見物／新聞に囚はれた演劇／戦後の歐洲美術界／妻と娘との対する僕の態度／東西の女新聞記者／若し僕が女ならば／俊子と時雨との人気／疲れたる森律子さん／伊藤野枝のソラ魂／丹いね子は童貞なりや／問題の宇治龍子先生／女優の不品行を責むる勿れ／女優と通ずる新劇団の頭目／女の欲の皮／ほか



●第三巻●妻となる 1

青柳有美〔著〕

最新結婚学

一九一五年 実業之世界社

【目次から】 序／第一章 結婚の利害／第二章 結婚忌避／第三章 試験結婚／第四章 複結婚／第五章 自由恋愛／第六章 女子の偏見／第七章 禁欲のはず／第八章 離婚の自由／第九章 制限的離婚／第十章 結婚の定義／第十一章 性欲結婚／第十二章 便宜結婚／第十三章 利用結婚／第十四章 盲目結婚／第十五章 審美結婚／第十六章 恋愛結婚／第十七章 道義結婚／第十八章 子孫結婚／第十九章 分別結婚／第二十章 結婚年齢／第二十一章 血族結婚／ほか

婦人身上内輪の相談：法律百般家事職業

一九一三年 実用法律学会

【目次から】 第一編 夫婦間の関係／第二編 結婚離婚／第三編 親子姉妹の柄／第四編 養子縁組／第五編 親族間の扶養／第六編 入夫と女戸主の隠居／第七編 相続と遺留分／第八編 遺言の方法／第九編 戸籍の届出／第十編 貸借と売買／第十一編 罰刑上の心得

●第四巻●妻となる 2

田中孝子〔編〕

結婚相談

一九四三年 日本放送出版協会

【目次から】 序（安井洋）／編纂者の言葉（田中孝子）／良縁をつくる（田中孝子）／結婚相談の手帳より（大野とき）／建設の結婚（佐々木みち）／結婚相談室の一曰（五十子三四子）／百聞一見に如かず（生田花世）／南方の兄へよせる（古閑紀子）／ほか

【目次から】 序（田中孝子）／結婚と社会生活（羽仁説子）／男女の交際について（城戸又一）／結婚の衛生と産児調節（式場隆三郎）／最近の結婚問題（田中孝子）／新民法とその適用（田中孝子）／第4講 流行と風俗（桑沢洋子）／第5講 街の女（鷺沼登美枝）／第6講 未亡人はどう生きるか（櫛田フキ）／第7講 恋愛と

現代女性十一講

一九五〇年 ナウカ社

帶刀貞代・櫛田フキほか〔著〕

現代人の結婚

一九四九年 関書院

【目次から】 第1講 婦人解放思想史（三井礼子等著）／第2講 婦人解放運動史（村田静子等著）／第3講 戦後の婦人運動（加生富美子）／第4講 流行と風俗（桑沢洋子）／第5講 街の女（鷺沼登美枝）／第6講 未亡人はどう生きるか（櫛田フキ）／第7講 恋愛と

結婚（牧瀬菊枝）／第8講 職場の女性（島津千利世）／第9講 農村婦人（児島美都子）／第10講 婦人の教育と婦人の解放（川崎七瀬）／第11講 家庭婦人（松田解子）／第12講 戦争はわたしたちからすべてを奪ふ（宮本百合子）

●第五卷● 家庭を作る 1

国民新聞社〔編〕

理想の家庭

一九一五年 家庭博覧会

【目次から】 理想の家庭（徳富猪一郎）／教育（下田歌子）／学校の修業年限と学費／結婚（鳩山春子）／婚礼の儀式／育児（瀬川昌考）／育児の栄／衛生（吉岡弥生）／衛生の栄／交際（山脇房子）／交際の心得一三／住宅（伊藤忠太）／中流の納戸と裁縫部屋（羽仁もと子）／室内の装飾（井上秀子）／住宅に就ての方位／室内掃除のこと／器具の扱い方／庭園（長岡安平）／庭園に就ての注意／三／園芸（鈴木武太郎）／植木鉢の土に就て／園芸十一ヶ月／台所（入澤常子）／台所用器具の扱い方／家庭料理（赤堀峯吉）／料理のこといろいろ／家庭経済（嘉悦孝子）／衣服（堀越千代子）／衣服に就て／洗濯（宮川壽美子）／洗濯法いろいろ／汚点抜き法いろいろ／下婢の使ひ方（加藤常子）／家庭の娛樂（巖谷小波）

淡徳三郎〔訳〕

共産主義の恋愛・結婚・家族論

一九三一年 大衆公論社

—その理論とその具体的展望—
【目次から】 第一部 理論（マルクス・エンゲルス及びレーニンに於ける）／共産主義と性愛・結婚及び家族問題（リヤザーノフ）／レーニンと婦人問題（クララ・ツエトキン）／婦人問題に関するレーニンの断章 第二部 実際（サヴェート連邦に於ける）（ゼシカ・スミス）／五六年計画は如何に婦人を解放するか（P・マルケル）／日本に於ける被压迫婦人の状態と其の解放運動（岡由之）

第六卷● 家庭を作る 2

吉岡弥生〔著〕

安産と育児

一九三〇年 丁未出版社

【目次から】 安産の巻 第一章 婦人と月経／第二章 妊娠より臨月まで／第三章 妊娠中の衛生／第四章 お産を軽くする方法／第五章 産後は如何に損生するか／ほか 育児の巻 第一章 産児の取扱方／第二章 母乳とお粥と米食と乳母／第三章 牛乳の選択とその用法／第四章 子供の食物／第五章 子供の病気と看護／ほか

末廣義一〔著〕

結婚初夜の性典

一九三六年 龍興館書店

【主な収録内容】 結婚と云ふことは／結婚の礼式及び時期／結婚当夜男女の心得／結婚準備としての性智識／婚礼式／見合の心得／結婚初夜の花嫁の心理／血痕の有無によつて処女非処女の判断／結婚の夜の技巧／無理解から生じた悲劇／里帰り／婿入りの事／門見せの礼／結婚同時の旅行／交接の時期／妊娠したならば／妊娠とは／

妊娠の徵候／妊娠第一ヶ月の胎児／妊娠第十ヶ月目（臨月）／育児法／生理的状態の変化／初生児の摂養／ほか

性とは何か／3 学習に就いて／4 社交／ほか 第二章 恋愛・結婚篇 1 わが恋愛觀／2 恋愛に似たもの／3 女性と処女性／4 日本の女性と友愛結婚／5 機械的貞操觀時代／ほか 第三章 現代思潮篇 1 現代の流行について／2 贅沢とは何か／3 女性の悩み／4 女のしごと／5 婦人と年齢／6 若い婦人の長所と短所／ほか 第四章 相談に答へて 1 小説家になりたい女性に／2 自活を望む若き婦人に／3 血族結婚について／4 醜く生れた処女／ほか 第五章 隨想篇 1 ある場合／2 丸帯／3 恋愛は試練か／4 愛し得ぬ悲しみ／5 常識といふこと／6 初めての美容術／ほか



第七卷● 女子の修養 1

芳進堂編輯部〔編〕

最新東京女子学校案内 一九三三年 武田芳進堂

【目次から】 前編 総説／第一章 女子教育と学都東京／第二章 職業と学校／第三章 修学と資金／第四章 独学立身の途／第五章 苦学と其の方法／第六章 夜学校／第七章 学生生活と東京／第八章 学事法規の概要 本編 各学校案内／第一類 実業学校／第二類 高女に類する学校／第三類 寶塚学校／第四類 専門学校及大学／第五類 語学校及予備学校／第六類 事務員の学校／東京女子諸学校入学競争率／ほか

女子大学講義編輯部〔編〕

職業別学校案内と婦人職業指導

一九一九年 白百合書肆

【目次から】 (教育に関する部) 1 中等教員／2 小学教員／3 幼稚園保母／ほか (医学に関する部) 1 女医／2 婦人薬剤師／ほか (營養に関する部) 1 女营养士 (文学に関する部) 1 音楽家／2 作家／3 美術家／4 生花茶の湯師匠／5 琴の師匠／6 遊藝師匠／7 女優／ほか (宗教に関する部) 1 婦人伝道師／2 救世軍女士官 (技術に関する部) 1 歯科技工士／2 女写真師／3 タイピスト／ほか (高等女学校卒業で直ぐ就職の出来る職業) 1 普通女事務員／2 女店員／3 セールス・ガール／全国職業紹介所便覧／ほか

第八卷● 女子の修養 2

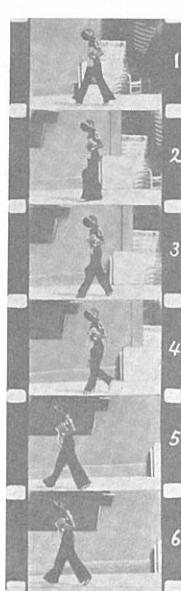
三宅やす子〔著〕

令嬢学

一九三二年 宝文館

現代女性服飾読本

一九三七年 関書院



第十卷● 女の美容 2

関美枝子〔著〕

新女性の洋装

一九三三年 南光社

【目次から】 第一章 和装から洋装へ／第二章 服飾美術／第三章 色／第四章 線／第五章 流行／第六章／第七章 洋服の正しい着方／第八章／第九章／第十章 洋装と経済

洋髪の結び方と美容の秘訣

一九一八年 東京洋髪研究会出版部
田中千代〔著〕

【目次から】 結髪準備の巻／束髪の巻／新型結髪の巻／美容の巻
伊福部敬子〔著〕

一九三七年 教材社

母なれば

性とは何か／3 学習に就いて／4 社交／ほか 第二章 恋愛・結婚篇 1 わが恋愛觀／2 恋愛に似たもの／3 女性と処女性／4 日本の女性と友愛結婚／5 機械的貞操觀時代／ほか 第三章 現代思潮篇 1 現代の流行について／2 贅沢とは何か／3 女性の悩み／4 女のしごと／5 婦人と年齢／6 若い婦人の長所と短所／ほか 第四章 相談に答へて 1 小説家になりたい女性に／2 自活を望む若き婦人に／3 血族結婚について／4 醜く生れた処女／ほか 第五章 隨想篇 1 ある場合／2 丸帯／3 恋愛は試練か／4 愛し得ぬ悲しみ／5 常識といふこと／6 初めての美容術／ほか

如何にして選ぶべきか／第一章 配色の知識／第三章 和装各部に於ける配色、附柄／ほか 第二編 社交と服飾 第一章 招待を受けた時の服飾常識／第二章 外出に先立つての注意／第三章 服飾品贈答の上手な仕方／ほか 第三編 現代女性の服飾常識 第一章 服飾の意義／第二章 流行と女性に関する諸問題 第一章 新妻の服飾／第二章 ものゝあはれと服飾美／第三章 女訓導女教員の服飾問題／ほか

大政翼賛会文化部 [編]

新生活と服飾

一九四二年 翼賛図書刊行会

【目次から】被服についてどういふ問題があるか？／気候と衣服発展民族の衣服問題／大陸進出と衣服問題／防寒服装の被服構成と労働時における発汗防止の問題／晴衣とそれを生かす心／時局と織維（一）スフについて、染料問題について／時局と織維（二）絹について／統計からみた衣服問題／座談会／ほか

中田秀夫 [編]

新女性文化 家庭篇

一九四三年 国民社

【目次から】序言にかへて／近代戦の特質／戦争と生活資材／家庭防空／日本女装の変遷／戦時下の衣服／服装のこと／礼服のはなし／婦人服その他／服装／飲食系図／母親への栄養知識／健康と飲食の関聯／酒の科学／戦時下の住宅建築／庭園／物は心から生まれる／家政（鉢後の見聞から）／子供の取扱い方雑草／薬学の常識／婦人の厚生／美容／新時代の女性と美容

第十一卷 ● 働く女性 1

春陽 [著]

自活の出来る女子の職業

一九一七年 洋光社出版部

【目次から】一 女子の就職と学校／二 小学女教師／三 文流文学家／四 薦秀画家／五 婦人記者／六 裁縫教師／七 管曲指南／八 造花／九 編物／十 刺繡／十一 生花の師範／十二 茶の湯宗匠／十三 割烹教師／十四 女医／十五 産婆（助産婦）／十六 看護婦／十七 三越の店員／十八 日本銀行の事務員／十九 女子通信手／二〇 電話交換手／二一 官庁の事務員／二二 女子判官／二三 美髪学校と女髪結／二四 女写真師／二五 女優／二六 琵琶教授／二七 女工／二八 速記者／二九 タイピスト

東京日日新聞社 [編]

職業婦人の研究

一九二一年 東京刊行社

【目次から】第一編 総論／第二編 女売買／第三編 貸金論／第四編

工女教育／第五編 晚は如何に／第六編 夜は如何に／第七編 女不憫や／第八編 踏みにじられた女／第九編 結論

第十一卷 ● 働く女性 2

佐瀬文哉 [著]

文化的婦人の職業

一九一四年 白光社出版部

【目次から】第一章 概説／第二章 通勤職業／電話局員／貯金局事務員／三 鉄道局員／ほか 第三章 独立的職業／一 女医／二 婦人歯科医師／三 婦人薬剤師／ほか 第四章 住込の婦人職業／一 製糸教導／二 汽船乗組婦人司厨及監督／三 外人家庭のナース／ほか 第五章 特殊の職業／一 女僕／二 歌劇女優／三 活動写真説明者／ほか 第六章 婦人労働職業／一 紡績織布工場女工／二 専賣局婦人授業員／三 印刷局女子工員／ほか 第七章 婦人内職／一 手縫刺繡職／二 シンガーミシン刺繡／三 メリヤス手袋編み／ほか 第八章 婦人にに対する各種の営業／一 古着仕立直し販売業／二 古足袋股引カバ類再製販売／三 安鼻緒爪皮類製造販売／ほか

【目次から】第一章 概説／第二章 通勤職業／電話局員／貯金局事務員／三 鉄道局員／ほか 第三章 独立的職業／一 女医／二 婦人歯科医師／三 婦人薬剤師／ほか 第四章 住込の婦人職業／一 製糸教導／二 汽船乗組婦人司厨及監督／三 外人家庭のナース／ほか 第五章 特殊の職業／一 女僕／二 歌劇女優／三 活動写真説明者／ほか 第六章 婦人労働職業／一 紡績織布工場女工／二 専賣局婦人授業員／三 印刷局女子工員／ほか 第七章 婦人内職／一 手縫刺繡職／二 シンガーミシン刺繡／三 メリヤス手袋編み／ほか 第八章 婦人にに対する各種の営業／一 古着仕立直し販売業／二 古足袋股引カバ類再製販売／三 安鼻緒爪皮類製造販売／ほか

岸 岩一 [編]

女子就職の秘訣

一九三七年 清華堂

各会社銀行・デパート・車掌受験集

【目次から】若き女性と職業／東京府職業紹介所婦人部に就いて／銀行、会社、官庁に就職するまで私の体験記百貨店で働く法

第十三卷 ● 働く女性 3

工場管理研究所 [編]

女子勤労管理の実際

一九四四年 三和書房

【目次から】女子勤労管理について／女子労務者の適職及適性／女子職業情態と指導所よりの希望／婦人労務者の保健衛生に就いて／女子勤労管理の諸問題に就いて／女子勤労管理の実際／女子の技能養成と勤労管理／機械工業に於ける女子勤労管理／紡績に於ける女子労務管理の実際／紡績工場に於ける女子勤労管理の一典型／女子勤労管理の指針／附録一、女子勤労動員の促進に関する件／二、女子勤労動員の促進に関する件通牒

軍事工業新聞 [編]

女子勤労管理の要諦

一九四四年 軍事工業新聞出版局

【目次から】女子勤労代替の緊要性／女子労務者の職場組織と適性配置／女子を使用し得る作業の範囲／女子の賃金に就て／豊田自動織機に於ける女子労務者使用現況／附録トヨタ自動車に於ける女子労務者の技術指導／女子労務者の作業指導

第十四卷 ● 働く女性 4

帶刀貞代 [著]

働く女性のために

一九四九年 雄文社

【目次から】I 働く女性のために／一 いかに考えて生きるか／二 女性的の隸属性について／三 女工袁史は何を語るか／四 働く婦人はこうして生きている／五 組合はあるたをまもつてゐるか／六 農村婦人はめざめたか／II 新しいモラルについて／一 新しい女らしさ／二 新しい世代は拒否する／三 男のエゴイズム／四 増み合う女たち／五 新しいモラルについて／六 平澤家の人々／III 生活の合理化について／一 家庭生活に入ろうとする人々に／二 生活の科学化について／三 生活技術について

総解説 (岩見照代)

【目次から】ひと月振で夫婦が撮影所で「ヤア」タマには一緒に御飯が食べたい／西と東に街を流す夫婦チンドン屋但し旅先では存分に惚ける／私が痼癖起しても良人は怒らず暖簾と腕押し收入は一緒に搔き混せる／奥さんからいたゞく主人の小遣は一日五拾銭也干渉するなら別れる／と奥さん／新橋駅で夫婦が一坊やのリレー妻子の留守の家庭は寂しい／時間は別々子供はなし私寂しいです／とヌルマ湯國際結婚のご夫婦／ほか

【本企画の主要な著者、および編者】

【そのほかの主要な執筆者】

青柳有美（あおやぎ・ゆうび、一八七三～一九四五）ジャーナリスト、評論家。秋田県出身。本名猛。同志社普通学校卒。一八九三年より

『女学雑誌』に関わり一九〇三年以降終刊まで発行兼編集人。大正期には実業之界で編集を務める。一九三六年には宝塚音楽劇学校嘱託。

女性問題 性科学、恋愛問題についての著作多数。

伊福部敬子（いふくべ・としこ、一八九九～一九七〇）評論家。福井県出身。生田長江に師事し、一九一九年、『窓』創刊。母性文化の建設をとなえる。東京民事裁判所調停委員、東京都児童福祉審議会委員などを歴任。

櫛田ふき（くしだ・ふき、一八九九～二〇〇一）評論家。福井県出身。櫛田民藏の妻。一九四六年宮本百合子らと婦人民主

クラブの結成に参加。一九四九年同クラブ委員長、一九五八年日本婦人団体連合会会長となり、国際的な連帯につとめる。女性解放・平和運動に尽力した。

堀刀貞代（たてわき・さだよ、一九〇四～一九九〇）女性運動家。島根県雲南市出身。昭和初期 全国婦人同盟や無産婦人同盟の結成に参加、戦後も婦人解放運動に取り組み、一九六二年新日本婦人の会の結成に参加、代表委員を務める。

田中千代（たなか・ちよ、一九〇六～一九九九）ファッションドザイナー。東京出身。昭和初期に渡欧、帰国後、近代洋裁教育・服飾デザインの礎を作った。一九三三年鐘紡紡績（現・カネボウ）の顧問。一九三三年、阪急百貨店婦人服部の初代デザイナー。一九四八年財團法人田中千代学園を設立。

淡徳三郎（だん・とくさぶろう、一九〇一～一九七七）評論家。大阪市出身。一九一五年京大哲学科卒業。学連事件、三・一五事件で検挙される。一九三五年渡仏、四年まで滞在し「改造」の特派員などをつとめた。戦後ソ連に抑留、四八年帰国。その後は社会評論家として活躍。三宅やす子（みやけ・やすこ、一八九〇～一九三二）作家、評論家。京都市出身。本名・安子。京都師範学校校長・加藤正矩の娘で、加藤弘之の妹。お茶の水高等女学校卒業。昆虫学者三宅恒方と結婚。娘の三宅艶子も作家。一九二一年夫と死別ののち文筆活動に入る。

村岡花子（むらおか・はなこ、一八九三～一九六八）翻訳家・児童文學翻訳者としては、戦後のモンゴメリ『赤毛のアン』シリーズが著名。吉岡弥生（よしおか・やよい、一八七一～一九五九）教育家、医師。静岡県出身。東京女子医科大学の前身である東京女医学校、東京女子医学専門学校を創設し、女性医師の養成や医学の教育・研究の振興に尽力。

赤松常子（あかまつ・つなこ、一八九七～一九六五）政治運動家・政治家。兄は赤松克麿。山口県出身。京都女子専門学校を中退後、一九二五年に日本労働総同盟に、また一九二七年には労働婦人連盟を結成。戦後は一九四五年に社会党婦人部長となり、一九四七年に参議院議員初当選（当選三回）。のち民社党結成に参加。

生田花世（いくた・はなよ、一八八八～一九七〇）小説家。徳島県出身。徳島高女卒。河井醉茗に師事。一九一三年、『青鞆』同人となり、一九二八年『女人芸術』の創刊に参加。夫・生田春月の死後『詩と人生』を主宰。「近代日本婦人文芸女流作家群像」「燃ゆる頭」など。

市川房枝（いちかわ・ふさえ、一八九三～一九八二）婦人運動家・政治家。愛知県出身。一九一九年に新婦人協会を設立、婦人参政権運動を続けた。戦後には婦人の政治的啓蒙と参政権要求運動を行い、一九四六年に新日本婦人同盟を結成し、会長に就任。一九五三年には参議院議員に当選。

上田柳子（うえだ・りゅうこ、一八九一～一九八二）家政学者。一九三三年に日本女子大の教授、一九四八年には東京都生活学校講師、五二年には文化服装学院短期大学教授を兼任。

円地文子（えんち・ふみこ、一九〇五～一九八六）作家。東京出身。日本女子太学付属高等女学校中退。代表作に明治大正昭和を生きた女性知識人を描いた三部作「朱を奪うもの」、「傷ある翼」、「虹と修羅」ほか、「坂」などがある。

桑沢洋子（くわさわ・ようこ、一九一〇～一九七七）ファッションドザイナー。東京出身。一九三三年に女子美術学校師範科西洋部（現在の女子美術大学）卒業。一九三七年に婦人画報社に勤務。一九四二年退職後、桑沢服飾工房を設立。一九四八年「日本デザインクラブ」の結成メンバーとして参加。一九五四年に桑沢デザイン研究所を設立。下田歌子（しもだ・うたこ、一八五四～一九三二）教育家。岐阜県出身。一八七二年女官となり、皇后から歌子の名をうける。下田猛雄と結婚。一八八一年、桃夭女塾を開設。一八八五年華族女学校（女子学習院の前身）の設立に参加し、教授、学監となる。一八九八年帝國婦人協会を設立し、翌年、付属の実践女学校（実践女子大の前身）を創立。

鳩山春子（はとやま・はるこ、一八六三～一九三八）教育家。長野県出身。鳩山和夫の妻、鳩山一郎・秀夫の母。一八七五年、東京女子師範（お茶の水女子大）に入学、卒業後、母校の教師となる。一八八一年六〇年から執筆された「橋のない川」。

年、鳩山和夫と結婚。一八八六年、共立女子職業学校（共立女子大）の設立に参加、一九二三年、同校六代目校長を務める。

羽仁説子（はに・せつこ、一九〇三～一九八七）教育家、評論家。東京出身。羽仁吉一、羽仁もと子の娘。自由学園を卒業後、「婦人之友」記者、自由学園教授などを務める。森五郎（羽仁五郎）と結婚。一九四六年婦人民主クラブの創設に参加。一九五二年日本子どもを守る会の発足に参加。女性運動、児童福祉、性教育などに活動、発言した。

深尾須磨子（ふかお・すまこ、一八八八～一九七四）詩人。兵庫県出身。京都菊花高女卒。一九二二年夫、深尾賛之丞の遺稿詩集刊行を機に、与謝野晶子に師事。たびたび渡仏して生物学やフルートを、パリ大にて性科学をまんだ。戦後は平和運動、婦人運動に尽力した。

深尾紅子（ふかざわ・こうこ、一九〇三～一九九三）洋画家。岩手県出身。女子美術学校（現女子美大）卒業後、同郷の深沢省三と結婚。一九二五年二科展で初入選。一九三七年一水会に参加し、一九四一年「スカーフの女」が一水会賞。一九四六年、女流画家協会の創立に参加。盛岡短大教授、自由学園講師を務める。

松田解子（まつだ・ときこ、本名・大沼ハナ、一九〇五～二〇〇四）小説家。秋田県出身。一九二六年上京。一八年「産む」が読売新聞新人短編募集に入選。プロレタリア作家同盟に加盟、一九年「乳を売る」「全女性進出行進曲」（山田耕筰曲）を発表。戦後も一九六九年「おりん口伝」で第一回多喜一・百合子賞、第八回田村俊子賞を受賞。「地底の人々」「回想の森」など。

宮本百合子（みやもと・ゆりこ、一八九九～一九五一）小説家。東京出身。日本女子大中退。一七歳で「貧しき人々の群」を発表。一九二七年ソ連に留学。帰国後共産党入党し、宮本顯治と結婚。戦中は非転向を貫く。戦後、新日本文学会の結成に参加。代表作に「伸子」「播州平野」「道標」。

山本 杉（やまと・すぎ、一九〇二～一九九五）医師。一九二三年東京女子医専卒業。結核研究所に勤務。戦後初期には純潔教育を始めた性教育と、産児制限について多く発言した。また仏教に关心を寄せ、大正末期には仏教女子青年会の代表として東京連合婦人会に参加。戦後には全日本仏教会常務理事、全日本仏教婦人連盟理事長等を務めた。

山脇房子（やまわき・ふさこ、一八六七～一九三五）教育家。島根県出身。島根女子師範卒。上京して女子奨励会で英語を学ぶ。一九〇三年、東京牛込白金町に山脇女子実修学校（現山脇学園）を創設、校長となり、女子教育に尽力した。

時代が求めた「女性像」全14巻

— 大正・戦中・戦後にみる「女の一生」 —

[監修・解説] 岩見照代

A5判上製／クロス表紙

全14巻●予定価285,390円(本体271,800円) ISBN978-4-8433-3488-1 C3336

第1回配本 全6巻

既刊・2010年10月刊

全6巻●予定価131,040円(本体124,800円) ISBN978-4-8433-3489-8 C3336

- 第1巻 ■ 「新しい女」へのリアクション
- 第2巻 ■ 戦後女性の出発
- 第3巻 ■ 妻となる 1
- 第4巻 ■ 妻となる 2
- 第5巻 ■ 家庭を作る 1
- 第6巻 ■ 家庭を作る 2

定価16,590円(本体15,800円) ISBN978-4-8433-3491-1 C3336
定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-3492-8 C3336
定価16,800円(本体16,000円) ISBN978-4-8433-3493-5 C3336
定価17,850円(本体17,000円) ISBN978-4-8433-3494-2 C3336
定価30,450円(本体29,000円) ISBN978-4-8433-3495-9 C3336
定価27,300円(本体26,000円) ISBN978-4-8433-3496-6 C3336

第2回配本 全8巻

既刊・2011年3月刊行

全8巻●予定価154,350円(本体147,000円) ISBN978-4-8433-3490-4 C3336

- 第7巻 ■ 女子の修養 1
- 第8巻 ■ 女子の修養 2
- 第9巻 ■ 女の美容 1
- 第10巻 ■ 女の美容 2
- 第11巻 ■ 働く女性 1
- 第12巻 ■ 働く女性 2
- 第13巻 ■ 働く女性 3
- 第14巻 ■ 働く女性 4・総解説(岩見照代)

定価19,950円(本体19,000円) ISBN978-4-8433-3497-3 C3336
定価21,000円(本体20,000円) ISBN978-4-8433-3498-0 C3336
定価19,950円(本体19,000円) ISBN978-4-8433-3499-7 C3336
定価25,200円(本体24,000円) ISBN978-4-8433-3500-0 C3336
定価12,600円(本体12,000円) ISBN978-4-8433-3501-7 C3336
定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-3502-4 C3336
定価18,900円(本体18,000円) ISBN978-4-8433-3503-1 C3336
定価14,700円(本体14,000円) ISBN978-4-8433-3504-8 C3336

★関連企画のご案内

※価格は外税。詳細な内容見本がございます。弊社営業部宛て請求下さい。

近代日本のセクシュアリティ

全35巻●予定価: 本体541,000円+税 〈性〉をめぐる言説の変遷 ([編] 斎藤光・全6巻) / 女性の描かれ方にみるセクシュアリティ I

([編] 岩見照代・全6巻) / 思想・文学にみるセクシュアリティ ([編] 鈴木貞美・全6巻) / 風俗からみるセクシュアリティ ([編] 井上章一・全5巻) / 女性の描かれ方にみるセクシュアリティ II ([編] 与那覇恵子・岩見照代・全6巻) / 同性愛言説・性教育からみるセクシュアリティ ([編] 古川誠・全6巻)

変態・資料

[監修] 島村輝 全5巻●予定価: 本体105,000円+税

コレクション・モダン都市文化 第VI期

[監修] 和田博文 全20巻●予定価: 本体360,000円+税

戦前期四大婦人雑誌目次集成

[監修] 与那覇恵子・平野晶子 全36巻●予定価: 本体540,000円+税

世界女性学基礎文献集成 明治・大正編

[監修] 水田珠枝 全15巻●予定価: 本体184,500円+税

世界女性学基礎文献集成 昭和初期編

[監修] 水田珠枝 全15巻●予定価: 本体201,000円+税

女性のみた近代 全47巻・別巻6

[編集] 高良留美子・岩見照代 ●予定価: 本体628,400円+税



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
<http://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp

おすすめ
したい方

女性学を中心に、人権論、社会学、近現代史、政治思想、社会思想などの研究者、大学・公共図書館、女性センターなど。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493	年 月 日	※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
お名前	時代が求めた「女性像」 第1回 全6巻	セット	取扱店	
ご住所	●予定価131,040円(本体124,800円) ISBN4-8433-3489-8	セット		
	時代が求めた「女性像」 第2回 全8巻	セット		
	●予定価154,350円(本体147,000円) ISBN4-8433-3490-4	セット		
TEL	()			11.08/02.1000.H